

藤澤鋼板、別府スリッターなど4社

共同開発の物流システム「TEPPAN」

本格運用に着手、業務簡素化へ

熱延コイルセンターの藤澤鋼板とスリット加工業の別府スリッター、櫻井運輸および物流系ソフト開発のネバーマイルは、4社で共同開発した鉄鋼業界の運送に特化した管理システム「TEPPAN」(てっぱん)の本格運用に着手した。鉄鋼流通・加工企業と鋼材配送企業業の双方にとって業務を簡素化し、担当者の労務負担を軽減する仕組みを構築。今後は順次、バージョンアップすることも活用者の輪を広げていきたい考えだ。

長・藤澤丈氏)、別府スリッター(社長・別府竜児氏)の両社と長く取引関係にある櫻井運輸(社長・櫻井隆氏)が双方で「TEPPAN」を導入し、従来作業からの移行を進めていく予定だ。

「TEPPAN」(http://teppan.nevermile.co.jp)は、配送依頼をデータ化し、そのデータを当該企業間で記録・更新・追跡といったトレーサビリティ管理が可能なシステムを介して企業同士が情報連携でき、依頼や回答、連絡が画面上で完結するので重複作業や手配漏れ、人的エラーも軽減する。業界特有の重量・サイズの自動計算にも対応し、活用次第では複数企業同士の合積みや共同配送への応用展開でき

る。各社の基幹業務システムとの連携・同期も可能という。

得意とするネバーマイル(代表・深作康太氏)が担当。藤澤鋼板(社

長・藤澤丈氏)、別府スリッター(社長・別府竜児氏)の両社と長く取引関係にある櫻井運輸(社長・櫻井隆氏)が双方で「TEPPAN」を導入し、従来作業からの移行を進めていく予定だ。

鋼材流通業と運送業の配送手配・指示作業は、未だに紙やFAXを使った手作業が多く、そのため確認、回る原因にもなっている。台、依頼、連絡...といった業務が煩雑化・重

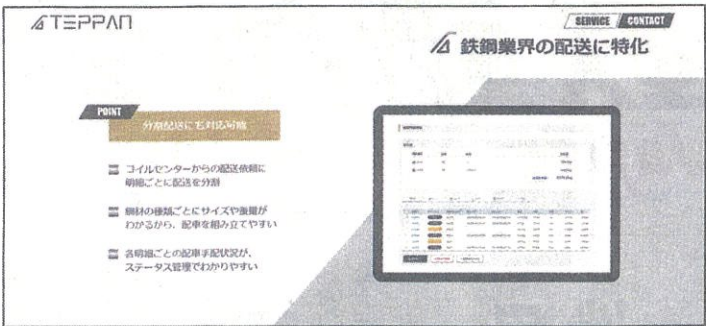
た業務が煩雑化・重

物流24年問題

5月、10月に東西で出展も

ていく意向も示した。

PRの一環で5月8～10日にインテックス大阪で、10月29～31日に幕張メッセで開催される「高機能素材ウィーク内METAL JAPAN」への出展も決めた。



「TEPPAN」専用サイトから

実際のシステム構築は物流・ロジ系を

TEPPAN開発4社代表 普及促進呼び掛け



前列左から別府スリッターの別府氏、藤澤鋼板の藤澤氏、後列左から櫻井運輸専務の櫻井隆介氏、ネバーマイルの深作氏

鉄鋼業界特化型オーダー運用開始を機に記者会見を行い「今後、TEPPANで開催される「高機能素材ウィーク内METAL JAPAN」への出展も決めた」と強調。その上で「TEPPANはコイルやカットシートといった鋼板製品のほか条鋼建材、デッキ類、パイプといった各種鋼材(素材・加工品)に対しても活用する仲間を」という。浦安鉄鋼団地内をはじめ首都圏で関心を高めている」とし、普及促進に力を入れているとのこと。